

孕ませオナホ巫女  
～成人すると生きたオナホ猫が与えられる村～

## トラック1

鈴 「お兄ちゃん、初めましてにや。鈴は鈴って言うにや」

鈴 「今日から成人したお兄ちゃんのオナホールとして、お兄ちゃんの子を孕む孕巫女として、沢山子供を産めるよう一生ご奉仕させて貰いますにや」

鈴 「だからにや？ 幼くておっぱいもちっちゃい未熟なオナホールだけど、好きな様に犯して気持ちよくなってにや♪」

鈴 「ん？ にやにや？ お兄ちゃん？ どうしたにや？」

鈴 「んにや？ 何で鈴が縛られてるか気になるにや？」

鈴 「にや？……鈴はお兄ちゃんの生きたオナホールにや。お兄ちゃん専用の肉便器にや。孕み袋にや」

鈴 「鈴は生まれてからずっとお兄ちゃんのオナホになる為だけに生きて来たにや。始めから将来の自由なんてなかったにや」

---

鈴

「にや、別に気にしないでいいにや。将来はオナホになるって教えられてきたから特に悲しかったりしないにや」

鈴

「むしろやっと思役目をこなせると思うと嬉しいにや。んにやゝ♪」

鈴

「だからにや？ 鈴は今日からお兄ちゃんのもの、お兄ちゃんだけのオナホだってわかって欲しい。そういう想いを込めて体を縛ってるにや」

鈴

「それににや？ 鈴はちっちゃくしてお胸もぺったんこだからお兄ちゃんに欲情して貰えるか、犯して貰えるか不安にや」

鈴

「少しでもお兄ちゃんに興奮して欲しい。鈴のオナホまんこを使って欲しいにや」

鈴

「だからお兄ちゃん。お願いにや。今日から鈴はお兄ちゃんのオナホなんだって、お兄ちゃんだけのオナホまんこだって分かせて欲しいにや」

鈴

「にや？ んにや♪ にやふう♪ はにやゝ♪ お兄ちゃん、ん♪ にやゝ♪ そんな優しく撫でられると、はにやゝ♪ にやん♪ にやにやゝ♪ くすぐったいにやゝ♪」

---

---

鈴

「んゝにや♪ にやにや♪ んゝにやにやゝ？  
お兄ちゃんのスボン膨らんでるにや。にやゝ？  
もしかしておちんぽ勃起してるにや？ 興奮  
してくれてるにや？」

鈴

「ふにやゝ♪ 鈴みたいなちっちゃなオナホで勃  
起してくれるなんて嬉しいにや♪ にやゝん  
♪」

鈴

「にやふふ♪ いいにや？ お兄ちゃんが鈴にし  
たい事何でもしてにや♪ 鈴はどんな事でも受  
け入れるにや♪」

鈴

「だって、鈴はもうお兄ちゃんのオナホールにや  
♪ お兄ちゃんのおちんぽにご奉仕する孕み袋  
にや♪ お兄ちゃんのしたい事全部叶えてあげ  
る孕巫女にや♪」

鈴

「今晚はどうか、使い捨てのオナホールみたいに  
自由に犯して孕ませてにやゝ♪ にやにやゝん  
♪」

---

## トラック2

「にゃゝ♪ お兄ちゃん、まずは鈴のどこを犯すにゃ？ おまんこにゃ？ お口にゃ？ それとも鈴のお尻の穴にゃ？」

「鈴はどこでも構わないにゃ。お兄ちゃんの欲望を受け止める覚悟は出来てるにゃ」

「んにゃゝ？ 始めは鈴のお口でおちんぽ気持ちよくなりたい……にゃゝ♪ 分かったにゃ♪  
鈴、頑張ってお兄ちゃんのおちんぽにお口で「奉仕するにゃ♪ にゃゝん♪」

「オナホとして初めてのご奉仕……んにゃゝ、お兄ちゃんに捨てられないよう頑張ってお奉仕するにゃ！」

「でも鈴は縛られて身動きが取れないから……お兄ちゃん。申し訳にゃいけどお兄ちゃんから鈴のお口におちんぽ突っ込んで欲しいにゃ」

「こう、鈴の頭を掴みながら本物のオナホールみたいに乱暴に動かす感じで」

「多分鈴の喉奥まで届いちゃうかもだけど気にしなくていいにゃ♪」

鈴

「むしろ鈴が窒息しちゃうくらい激しくおちんぽ  
ヌプヌプしてくれた方がお兄ちゃんに求められ  
てみたいで嬉しいにゃ♪」

鈴

「んにゃるる♪ お兄ちゃん♪ 鈴の初めてのオナ  
ホご奉仕、いっぱい感じてにゃ♪」

鈴

「はにゃるるん♪ お兄ちゃんのおちんぽが目の前  
に♪ んるるスン、スンスン……すううるるる  
る、はああるるるるるるるにゃるるん♪ おちんぽ  
とっても臭いにゃるる♪」

鈴

「先っぽにいっぱい白い塊が散らばって……こ  
れ、もしかしてチンカスにゃ？ んにゃるる♪  
チンカスう♪ お兄ちゃんのチンカスにゃるる  
♪」

鈴

「スン♪ スンスン♪ ふにゃるる♪ にゃるるん♪  
お兄ちゃんのチンカス♪ とっても臭くて汚  
くて♪ んうるる♪ にゃうう♪ これ、嗅いで  
るだけでおかしくなるにゃるる♪ マタタビより  
興奮しちゃうにゃるる♪」

鈴

「はあ、はあ♪ ん、ごくっ……鈴、早くお兄  
ちゃんのチンカス食べてみたいにゃ……お兄  
ちゃんのおしっこと精液が混じった白いチンカ  
スう♪」

---

鈴

「きつと臭くて汚くて……はにゃ〜♪ オナホと  
してチンカス掃除させて欲しいにゃ〜♪ チン  
カス食べたいにゃ〜♪」

鈴

「お兄ちゃん。早くお口の中に入れてにゃ〜♪  
鈴のちっちゃなペロで亀頭の先っぽからカリの  
溝、竿の根本までペロペロ舐めて綺麗にしてあ  
げるにゃあ♪」

鈴

「ん、にゃ〜♪ お兄ちゃん♪ お兄ちゃ〜ん  
♪ にゃ〜ん♪ 来てにゃ？ 鈴の口に臭くて  
汚いチンカス擦りつけてにゃ〜♪」

鈴

「ん、あ〜〜……むう♪ じゆる♪ ちゅ♪  
じゆるる……れろ♪ れろれろれろ……  
じゅぶ♪ ちゅ、ちゅぶう♪ じゆる♪ じゅ  
るるるう〜♪」

鈴

「んむう♪ お兄ちゃんのおちんぽ、想像以上に  
おっきい……んぶっ♪ じゆる♪ ん、ん〜♪  
じゆるる♪ ちゅぶっ♪ ん、れろ♪ れろ  
れろ……んちゅ♪ じゆる♪ じゆるじゆる…  
…ん〜、ちゅぶっ♪ んふう♪」

---

鈴

「あむ♪ んちゅ♪ れろ♪ れろれろ♪ んん♪  
チンカスもお♪ おちんぽにこびり付いて、  
んむう♪ じゆるじゆる♪ んぶぶっ♪  
中々取れにやい、ん、にや……んぶぶっ♪  
じゅぶじゅぶ♪ んちゅ♪ じゆるるるう♪  
♪」

鈴

「ん、んふう！ じゆるるる♪ ん、んぶうっ！  
お、お兄ちゃん……ん、んぶうっ！ じゆる！  
じゆるるるう♪ んふう♪ 鈴のお口で気持ちよくなっれてりゆにや？」

鈴

「じゆるるる♪ ん、んぶう♪ 鈴、フェラは初めてだから、じゆるるる♪ んぶ♪ じゆるるる♪  
♪ ん、ちゅ♪ 少し不安にや……ん、んん、  
じゆるるる♪ んちゅ♪ れろ、れろれろれろれろ……  
んちゅ♪ じゆるるるう♪ じゆるるるう♪  
ん、ちゅぶ♪」

鈴

「ちゅ♪ じゆるるるう♪ ん、んむう♪  
にやぶっ♪ ん、チンカスう……ん、んん♪  
じゆるじゆるじゆるじゆる♪ ん♪ 鈴のベロで……  
んちゅ♪ れろれろれろれろれろれろれろれろれろ♪  
じゆるるるう♪」

鈴

「んん♪ お兄ひゃん……んう♪ んぶう……  
ぷはあ！ はあ、はあ……ん、んぶっ！？ けほっ！  
けほっけほっ！ ん、にやうう……  
…♪」



---

鈴

「はあ、はあ、んにや。お兄ちゃんのチンカス  
いっぱい舐めとれたにや。あう、ん、んぷっ、  
にやうう、口の中がチンカスの臭みでいっぱい  
にや」

鈴

「このまま吐いちゃうのももったいないから……  
ん……くちゅ♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ  
くちゅくちゅくちゅくちゅ」

鈴

「んん……く、く、く、く……ん、ん  
むう……ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ ん、  
にやあ……♪」

鈴

「お兄ちゃんのチンカス、とっても濃くって……  
はにや……♪ チンカス美味しいにや……♪ にや  
にや……♪」

鈴

「お兄ちゃん♪ もっと鈴のお口でチンカスふき  
ふきしてにや♪ 精液もおしっこもチンカスも  
♪ 全部ぜんぶ鈴のお口でお掃除させてにや  
♪ にやにや……♪」

鈴

「にや……はぷう♪ じゅる♪ じゅるるう  
……♪ んちゅ♪ れ……ろれろろろ♪ ちゅ  
ぷっ♪ ん、じゅる♪ じゅるじゅる♪ ちゅ  
ぷぷっ♪ ん……ちゅ♪ れろ♪ れろれろろ  
れろ♪」

---

---

鈴

「ん、にやぶ♪　じゆるる♪　んぷっ♪　おちんぽお♪　んちゅ♪　カリにもいつふあいチンカス付いてて……じゆるる♪　れりゅ♪　ん、んちゅう♪　じゆるる♪　じゆるるう♪」

鈴

「んにゆう……れちゅ♪　じゆるる♪　んぷっ♪　れろれろ……んむう……んちゅ、じゆるじゆる……ん、んん……にゆう……ん、ぷはあ！　はあ、はあ……ん、にやうう」

鈴

「お兄ちゃんのおちんぽ、大きすぎて鈴のちっちゃなお口じゃ奥までベロが届かないにや」

鈴

「にやうう……このままじゃお兄ちゃんのおちんぽ、全然綺麗に出来ないにや。オナホ失格にや……にやうう……」

鈴

「ん、にやらお兄ちゃん。もっと鈴のお口の奥、喉の奥までおちんぽ入れてにや。喉ちんこを越えて喉の壁まで思いっきりおちんぽ突っ込んで喉にチンカス擦りつけて欲しいにや」

鈴

「んにやう♪　大丈夫にや♪　鈴はちっちゃくて幼いけど、そんな簡単に壊れたりしないにや♪」

鈴

「だからにや？　お兄ちゃんは何も気にせず、ただ鈴を使ってチンカス掃除してくれればいいにや♪　にやにやうん♪」

---

鈴

「んにゃ……お兄ちゃん……あゝ……んむう♪  
ん、んん！ んぷっ！ ん、んん！ じゅぶ  
ぶっ！ じゅぷっ！ ん、んん！ じゅるる！  
じゅぶぶぶうううう！」

鈴

「ん、んぶうっ！ じゅるる♪ じゅるるう！  
ん、んぶう！ じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶ♪  
じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶ♪ ん、ぶ  
ぶうっ！ お、お「おお……！ んぶう♪  
お、お兄ちゃん激ひ……！ んぶうっ！？」

鈴

「じゅる♪ じゅるるう！ んぶうっ！ じゅぶ  
じゅぶじゅぶじゅぶ♪ じゅぶじゅぶじゅぶ  
じゅぶ♪ ん、じゅるる♪ じゅるるうう♪  
じゅぶぶ♪ んぶう！ お、お兄ひゃん！  
ぶぶっ！ じゅるる♪ じゅるる♪」

鈴

「んぶう！ ぶぶっ♪ んん♪ 頭、掴まれて…  
…ん、じゅるるるるう♪ ん、んぶう……！  
こんな激ひいフェラ……ん、んぶう……っ！  
おぶっ！ お、おおお……！ ん、じゅるるう  
うう♪ んちゅ♪ じゅぶっ！ ん、んん！」

鈴

「ん、んぶうっ！ じゅるるうう♪ んん♪ チ  
ンカスう♪ ん、じゅるるるる♪ んぷっ！ ぶ  
ぶぶう！ んぶう♪ いっふあい取れて、ん  
ぶう♪ じゅるる♪ じゅぶぶう♪ 美味しい  
にやう♪ んぶう♪ じゅぶじゅぶじゅぶじゅ  
ぶ♪」





---

鈴

「初めてのお役目、きちんと果たせたみたいで安心……って、にやにや！ お兄ちゃん、またおちんぽムクムク大きくなって！ はにや！ にやにやにやにやゝ！」

鈴

「さ、流石鈴のお兄ちゃんだにや。カリ高勃起ちんぽにや♪ にやにやゝん♪」

鈴

「にやふふ♪ 大丈夫にや♪ 鈴はまだまだオナホとしてご奉仕出来るにや♪ だからにや？ もっと鈴の体好きに弄んで楽しんでにや♪ にやにやゝん♪」

---

# トラック3

鈴

「ん、にやうう……はあ、はあ、はあ、はあ……  
にやうう……お兄ちゃんごめんなさいにや。  
さっきのお口ご奉仕で、まだ息が整って無く  
て、ん、にやふう……はあ、はあ……ん、にや  
ゝ」

鈴

「つて、お兄ちゃん？ 顔が近い……つて、は  
にや！ お、お兄ちゃん？ にや、にや  
ふうっ！ ん、んみゆううゝゝ……！」

鈴

「はぶっ♪ んむう♪ ちゆ♪ れろ♪ んちゆ  
♪ ちゆぶ♪ ん、んぶう♪ ちゆ♪ れろ…  
…んちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪ ん、んむ♪ お兄  
ひゃん♪ あむ♪ んちゆ♪ れろれろ♪  
ちゆぶぶっ♪ ん、んん♪ にやぶっ♪」

鈴

「ちゆぶっ♪ ん、ちゆ♪ れろ、れろれろ……  
ん、んゝ……ぶはあ♪ はあ、はあ……ん、  
にやふう♪ 急にキスなんてビックリする  
にやゝ」

鈴

「ん、にやふ？ はにやゝ♪ 別に嫌じゃない  
にや。むしろこんな口リオナホにキスまでして  
くれるにやんて嬉しいにや♪ にやにやゝ♪」

---

鈴

「お兄ちゃんとのキス、すっごく気持ちよくて、ちゅってする度に幸せで胸がいっぱいになって、おまんこがきゅんきゅんしちゃって……はにゃ〜♪ 幸せでいっぱいにな〜♪」

鈴

「んにゃ。お兄ちゃん。オナホの癖にオネダリなんて本当はイケにゃい事だけど、ワガママ言ってもいいかにゃ？」

鈴

「鈴、もっとお兄ちゃんとキスしたいにゃ。気持ちいいキス……恋人なんていたら生意気かもだけど、出来れば恋人がするみたいにな〜幸せいっぱいキスをして欲しいにゃ」

鈴

「お兄ちゃん、お願いにゃ。鈴と、お兄ちゃん専用のロリオナホの鈴といっぱいキスしてにゃ？」

鈴

「あ、お兄ちゃん……ん、ちゅ♪ はぶっ♪  
ちゅぶ、ん、ちゅ♪ れろれろ……んちゅ♪  
ん〜ちゅ♪ れろれろ♪ ん、ちゅ♪ はぶっ♪  
♪ んちゅ♪ れろ、れろれろ♪ ん〜ちゅ♪  
ちゅ、ちゅ♪ にゃぶっ♪ ん〜ちゅ♪」

---



鈴

「んちゅ♪ れろれろれろ♪ んちゅ♪  
ちゅ、ちゅ♪ ん、お兄ひゃん……もつろ♪  
もつろ唾液混ぜ混ぜするにゃ♪ ん、れ♪  
……ちゅぶ♪ じゅるる♪ んちゅ♪ はぶっ  
♪ ん、ん♪ ちゅ♪ れろ♪ ちゅ、ちゅ  
♪」

鈴

「ん、ぶはあ♪ にゃあ♪ お兄ちゃんとのキ  
スう♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ にゃあ♪  
幸せにゃ♪ あむ♪ んちゅ♪ ちゅ、  
ちゅ♪ れろ♪ れろれろれろ♪ ちゅぶ  
ぷっ♪ んちゅ♪ じゅるる♪ じゅるじゅる♪  
んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

鈴

「ん、んみゅ♪ にゃ、にゃ♪ お兄ちゃん、  
ん、にゃうう……やつ、だ、ダメにゃあ……そ  
んにゃ、にゃうう……ん、ちゅ♪ はぶっ♪  
れろれろ……んむう♪ キスしにゃがらおまん  
こ触っちゃ、にゃうっ！ やっ、気持ちよしゆ  
ぎておかしくなっちゃう……ひゃうっ！」

鈴

「はあ、はあ♪ ん、にゃぶっ♪ んちゅ♪  
じゅるる♪ ん、ちゅ♪ れろ、れろれろ……  
ん♪ お兄、ひゃん……はぶっ♪ ちゅ♪  
れろぶちゅ♪ んちゅ♪ じゅるる♪ れろ♪  
れろれろれろ♪ んちゅ♪ ちゅ、  
ちゅ♪」

鈴

「ん、にやぶう♪ ん、やっ♪ にゃん♪  
にや、にやゝ♪ やっ♪ そんなにや！ お兄  
ちゃんの指、おまんこに入って……やっ、駄  
目っ！ そんなにやいきなりっ！ ひっ！  
にや！ にやにやにや！ にやにやゝゝ！」

鈴

「にやううう！！ ひっ！ やっ！ にやにや  
あっ！！ ん、にやぶっ！ ん、じゆるる♪  
じゅぶっ！ んぶうっ！ にや！ お兄ひや  
んっ！ ん、ちゅぶっ！ んん♪ じゆるる♪  
じゆるる♪ ん、ちゅ♪ れろれろ……ん、  
にやううう……！！」

鈴

「んぶうっ！ じゆるる♪ じゆるるるうゝ  
ゝ！！ ん、んちゅ♪ じゆるる♪ じゅりゆ  
りゅりゆゝゝ♪ ん、んん♪ じゆるるる♪  
ん、にやぶっ！ やっ♪ 激ひっ！ にや  
ぶっ！ ん、ちゅ♪ れろれろ♪ んん♪ き  
しゅ激ひい！ ん、じゆるるるうゝゝ♪」

鈴

「にやぶっ！ んちゅ♪ じゆる！ じゆるるる  
ゝゝ♪ んん♪ ぶはあ！ はあ、はあ、  
やっ、にやうう……！！ んにやあ！ やっ、  
だ、ダメにやゝ！ ん、はうっ！ にや！  
にや！ にや！ にやあゝ！ ん、にや  
うう！」

---

鈴

「お兄ちゃん、そこ……ん、にゃん♪ やっ！  
そこおまんこの穴じゃにやくて、ひゃうう！  
うっ、にやう……！ それ、おしっこの穴、  
にやあゝ！ ん、にやあゝ」

鈴

「ひっ、はあ、はあ……ん、や、そんな狭い穴ほ  
じくつちや、んみゆうう！！ にやにやにやゝ  
ゝ！ にやっ！ やっ！ な、何か変なのく  
りゆ……！ んみゆううゝ！ お股の奥から変  
なのくりゆにやあゝゝ……！」

鈴

「はあ、はあ……ん、んみゆっ！ じゆるる♪  
じゅぷぷっ！ ん、ちゅ♪」

鈴

「ん、ぷはあ！ にやにやゝ！ お兄ちゃん、  
やっ、それ以上は本当に……あ♪ やっ！  
めえゝ！ にやうう！ 鈴、ずっと縛られてた  
から、にや！ おまんこの奥おしっこたまっ  
ちやってて……それ以上されると、にやにや  
あ！ やっ、やあゝ！」

鈴

「ひやっ！ はうう！ ん、んみゆう！  
にやあ！ やっ、も、漏れる！ お、おしっ  
こお……！ ん、にやにやあっ！ やっ！ ダ  
メ、駄目になや駄目にや！ 鈴はオナホなのに、  
そんな粗相をしちや、やっ！ ダメ！ オナホ  
失格になりゆ！ やっ！ お兄ちゃんに捨てら  
れちゃう！ それだけはダメにや！ 絶対ダメ  
……んひいっ！？」

---

---

鈴

「んお♪ お、お、おお〜……♪ んひいっ！  
やつ！ にゃ〜！ お兄ちゃん！ また激し  
くっ！ んほ♪ お、おお……♪ ダ、ダメ  
にゃあ♪ おしっこ漏れりゆにゃあ！ 漏れ  
ちやうにゃあ！！ にゃにゃ〜……！！」

---

鈴

「ひっ！ はっ！ やっ！ はひい！ んふう！  
にゃにゃあ！ にゃ！ にゃ！ にゃ！  
にゃあ！ にゃにゃあ〜！」

---

鈴

「んひい♪ んおおお♪ やっ♪ ほんとにイグ  
♪ 鈴のまんごイグにゃ！ まんごイグ！ イ  
グイグイグイグイグイグイグうう！！  
ん、んみゆうう〜！！ おおお♪ お、おお  
お〜！！ イぎゆうう……！！ おしっこイッ  
ぎゆううううう〜……！！」

---

鈴

「んにゃああ〜！！ はにゃああ！！  
にゃっ！ やっ！ そんにゃ！ やっ！ お兄  
ちゃん見にゃいでにゃ！ やっ！ ダメ！ ほ  
んとにダメ！ やっ！ やあ〜……や、見にゃ  
いで〜……オナホのお漏らしい……ん、  
にゃああ……臭いおしっこお漏らし見ないで  
にゃ〜」

---

---

鈴

「ひゃうっ！ にゃ……にゃ、にゃあ……やつ……止まんないにゃ。おしっこ、ん、はあ、はあ……にゃあ、あうう……にゃあ……鈴の臭いおしっこ……はあ、はあ……漏れてるにゃ、お漏らし止まんないにゃ、にゃうう……」

鈴

「ん、にゃうう……ぷはあ♪ はあ、はあ、にゃあ……お兄ちゃん、ごめんなさいにゃ……鈴はお兄ちゃんのオナホールで、本来ならお兄ちゃんのおしっこを受け止めるのがお仕事なのに、こんな、オナホがお漏らししちゃうなんて……」

鈴

「う、ぐす……にゃあ……本当に本当にごめんなさいにゃあ……にゃうう……ぐす、ぐす……えう……にゃうう……」

鈴

「って、お、お兄ちゃん？ にゃぷっ！ んちゅ、じゅるるる♪ ん、んみゆうううう♪ じゅるる♪ じゅぷぷっ♪ んちゅちゅちゅ、ちゅ♪」

鈴

「ん、ちゅぷっ♪ ん、ぷはあ！ はあ、はあ……にゃにゃ？ やっ、お兄ちゃん、そんな強く抱きしめちゃ鈴のおしっこでお兄ちゃんも汚れちゃうにゃ！ にゃ、にゃにゃ……」

---

---

鈴

「にやふ？ にやあ？ そんにや、鈴のおしっこは綺麗だから大丈夫って、そんにや事ないにや！ こんな臭くて黄色い鈴のおしっこが綺麗な訳……にや、にやぷっ！ んちゅ♪ れろ♪ ちゅ、んちゅ♪」

鈴

「ん、ちゅ♪ れろ、れろれろ♪ んちゅ♪ じゅるる♪ ん、ん……ぷはあ♪ はあ、はあ♪ にやあ♪ お兄ちゃるん♪ にやにやる♪ お兄ちゃんのキスう♪ すっごく安心して……はにやる♪ お漏らししちゃったのに何だか嬉しい気分でいっぱいにやる♪」

鈴

「ん、にやふう……お兄ちゃん、本当に引いてないにや？ こんなおまんこ緩くて汚いオナホルで本当にいいのかにや？ 受け入れてくれるのかにや？」

鈴

「はにやる♪ お兄ちゃん♪ にやあ♪ こんな鈴でも受け入れてくれるなんてお兄ちゃんは心が広いにや♪ 本当に嬉しいにやる♪ にやにやる♪」

鈴

「お兄ちゃんお兄ちゃん♪ もう一回キスしてにや♪ 鈴のありがとうのキス受け取って欲しいにやる♪」

---

---

鈴

「にや♪ お兄ちゃん♪ 好きにや♪ 大好き  
にや♪ ん♪……ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪ は  
ぷっ♪ れろ♪ れろれろ……ちゆ♪ ちゆ、  
ちゆ♪」

鈴

「にやふう♪ にやにや♪ お兄ちゃんお兄  
ちゃ♪ ん♪ にや♪ にや♪ にや♪  
にや♪ にや♪ にやにや♪ お兄ちゃ♪  
ん♪ ん♪ にやふう♪ にやにや♪  
ん♪ にや♪ にや♪ にや♪」

鈴

「んにや♪ お兄ちゃんに出会えたこと、お兄  
ちゃんの専用オナホールになれた事、本当に幸  
せで最高ですにや♪ にやんにや♪」

鈴

「にやふふ♪ お兄ちゃん♪ 鈴、もう嬉しくて  
嬉しくておまんこ我慢の限界にや♪ ほら、こ  
こ。おまんこ触ってみてにや♪」

鈴

「にやん♪ にや♪ そうにや♪ お兄ちゃん  
のおちんぽ欲しくて欲しくて愛液駄々洩れです  
にや♪ にやふう♪ さっきのおしっこ混  
ざって凄い事になってるにや♪」

鈴

「んにや♪ お兄ちゃん♪ どうかお願い  
にや。お兄ちゃんのおちんぽ、オナホとして  
いっぱいご奉仕してぴゅっぴゅさせて欲しい  
にや。お兄ちゃんにいっぱい気持ちよくなって  
欲しいにや」

---

---

鈴

鈴

---

「にゃ〜♪ にゃふふ♪ お兄ちゃんったら期待  
でまたおちんぽ膨らませて……にゃ〜ん♪ 鈴  
のおまんこ楽しみにしてくれてるにゃ？ にゃ  
〜ん♪ 嬉しいにゃ〜♪」

「んにゃ♪ いいにゃ♪ お兄ちゃんのしたいよ  
うに鈴のオナホまんこ使ってにゃ♪ 鈴が壊れ  
ちゃうくらい思いつきり犯してにゃ♪ にゃ  
にゃ〜ん♪」



## トラック4

鈴

「ふにや？ お兄ちゃん？ 急に鞆を漁って何してるにや？ ん？ にやにや？ 早くセックスして鈴のオナホまんこ使ってくれるんじゃないのかにや？」

鈴

「つて、にやにや？ スン、スンスン……にやふ？ この香ばしくて甘い香り……お兄ちゃん？ これってまさか……」

鈴

「はにやつ！ にやにやにやにや！ お、お兄ちゃん！ それマタタビにや！？ もしかして持ち込んできたのかにや！？」

鈴

「にやつ！ やつ！ 駄目にや！ 鈴、マタタビがすっごく苦手ですぐ酔っちゃうにや！ 性格もおかしくなって変になっちゃうから……にやにや！ にやつ！ やつ！ お、お兄ちゃん……近づけちゃやつ……んにやつ！ だ、ダメ……ダメ……むにゅ……はにや……」

鈴

「ん、んふう……にや、にやあ……ん……スン、スンスン……ふう……ふう……ふう……にやふう……♪ は、はにや……？ にや、にやあ……♪ んにや♪」

鈴

「にやうう？ にやにやゝゝ はにやゝ……♪  
にやふうゝ♪ お兄ゝちやゝん♪ にやゝん♪  
にやゝにやゝ♪ マタタビゝ♪ にやゝん♪  
とゝつてもいい香りでゝ♪ んゝ♪ スンス  
ン♪ はにやゝ♪ にやゝにやゝん♪」

鈴

「んゝ♪ にやゝ♪ もつとお♪ もつとマタタ  
ビ嗅ぎたいにやゝ♪ お兄ゝちやゝん♪ にゆ  
ふふゝ♪ にやゝ♪ 鈴はゝ縛られてるからゝ  
♪ お兄ちゃんがもつとこつち来てゝ？ にや  
ゝ♪ いっぱいマタタビ嗅がせてにやゝ♪」

鈴

「んふふゝ♪ にやゝにやゝ♪ もつとゝ♪  
もつとこゝつち♪ お兄ちやゝん♪ んんゝ  
♪ そうにやゝ♪ そゝのゝまゝまゝ♪ にゆ  
ふふゝ♪ にやぶつ♪ んゝちゆ♪」

鈴

「はぶつ♪ んちゆ♪ れろれろ♪ れろれろれ  
ろれろゝ♪ んゝちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪」

鈴

「んちゆ♪ じゆるる♪ んゝちゆ♪ ちゆ……  
んゝ……ふはあ♪ はあ、はあ♪ んゝにや  
ふうゝ♪ にやにやゝ♪ にやゝん♪」

鈴

「にやふふゝ♪ お兄ちゃんの唇またいただい  
ちやったにやゝ♪ ふにやゝ♪ んゝ♪ マタ  
タビとゝ♪ お兄ちゃんの香りが混ざってゝ♪  
にやゝ？ にやにやゝ♪ 甘くて甘くて頭お  
かしくなりましゆにやゝ♪ にやふふゝ♪」

---

鈴

「んにゃ♪ お兄ちゃ♪ん♪ ん♪ちゅ♪  
ちゅ、ちゅ♪ もっと深くキスしてあげるにや  
♪ ん♪ちゅ♪ じゅる♪ じゅるるる♪  
♪」

鈴

「にゃ♪ お兄ちゃ♪ん♪ んふ♪ 鈴と  
ちゅっちゅ出来て♪、嬉しかったかにゃ♪？  
んにゃ♪ にゃ♪にゃん♪ にゃふふ♪」

鈴

「ん♪？ にゃ♪に♪？ 鈴は♪じえんじえん大  
丈夫にゃよ♪？ んにゃ♪ んにゃ♪ んにゃ♪ んにゃ♪  
に気分が良いのは久しぶりにゃ♪ にゃにゃ  
♪ん♪」

鈴

「つて、にゃふ？ ん、んん……やつ……むにゅ  
♪……や♪……さっき出したばかりなのにま  
た出そうにゃ♪……ん、んん」

鈴

「にゃあ♪……まだ出し切れてなかったみたいで  
……にゃ♪ 出るにゃ♪……おしっこお……  
お腹に残った鈴のくっさいおしっこまた出ちゃ  
うにゃ♪」

鈴

「ん♪ 本当は連続でお漏らしにゃんで、オナ  
ホがしていい事じゃにゃいけど♪……でももう  
そんなにやのどうでもいいにゃ♪ にゃ♪ん♪  
らっ♪ 何だか頭フワフワして♪ た  
ただただおしっこしたい気分にな♪」

---

鈴

「ん、んん♪ にやにや♪ お兄ちゃ♪  
見ててにや♪ 鈴のお♪ オナホのお漏らし♪  
♪ いっぱい見てにや？ 臭いおしっこいっば  
い嗅いでにや♪」

鈴

「ん、にやうう……♪ にや♪ 出りゆう♪  
ん、んふう♪ おしっこお♪ にや♪ お  
しっこおしっこお♪ ん、にや♪ にや♪  
にや♪にや♪にや♪にや♪」

鈴

「はにや♪にや♪にや♪にや♪ また出たにや  
♪にやふう♪にや♪ お兄ちゃんに  
見られながらの♪ 公開お漏らしい♪  
にや♪ メスのお♪ メス猫のお漏らしい♪  
オナホールのお漏らしい♪ にや♪ 気持  
ちいいにや♪」

鈴

「はにや♪ お兄ちゃ♪ もっと見てにや  
♪ ほくら♪ おしっここの穴から♪  
ちよろちよろ♪って黄色いおしっこ漏れてる  
ところ♪ ふにや♪ 臭い匂いでいっばい  
の♪ 下品なお漏らしにや♪」

鈴

「鈴のお♪ ちっちゃな口りおまんこから漏れる  
おしっこの香り♪ ん♪ スンスン♪ は  
にや♪にや♪にや♪にや♪ 自分で嗅いでも  
♪ 臭すぎて♪ んにや♪ おかしく  
なっちゃうにや♪ にやにや♪」

鈴

「ん、ん♪ にゃ♪ ん……はふう♪  
にゃにゃ♪ おしっこのお替りもおしまい  
にゃ♪ にゃにゃ♪ お兄ちゃ♪  
いっぱい見てくれてありがとうにゃ♪ ん♪  
ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

鈴

「ふふ♪ でっも♪ ん、にゃ♪ またお  
漏らしして、愛液もだらだらに垂れて、お  
まんこ、気持ち悪いにゃ……んむう……  
にゃ……お兄ちゃ♪ これ♪ おまん  
こ♪ お兄ちゃんのお口でペロペロして綺麗  
にして欲しいにゃ♪」

鈴

「らって♪ こっ♪ テイツシュもタオルも  
にゃいから、お兄ちゃんに舐めてもらうしか  
綺麗にする方法がないにゃ♪ にゃ♪  
お兄ちゃ♪ 舐めてにゃ♪ 鈴のとろと  
ろおまんこペロペロ舐めてにゃ♪」

鈴

「ん、にゃ♪ そうにゃ♪ そのまま……  
お兄ちゃんのベロを伸ばして♪」

鈴

「にゃううっ!？」

鈴

「はにゃああ!？ にゃっ、にゃにゃっ! ん、  
にゃああ♪ ん、にゃふう♪ にゃん  
♪ いきなりでビックリしたにゃ♪ ん、  
にゃにゃ♪ にゃふふ♪ お兄ちゃんっ  
てばおまんこ舐めるの上手にゃ♪」

鈴

「んふふ♪ 鈴も♪ マタタビで全身敏感になつてて♪ んふう♪ にゃ♪ おまんこ舐められるの気持ちいいにゃ♪」

鈴

「それ♪ にゃ♪ にゃ♪ 鈴はオナホルなのにい♪ 主であるお兄ちゃんにおまんこ舐めさせるにゃ♪ にゃ♪ 背德的すぎておまんこキュンキュン止まんないにゃ♪」

鈴

「にゃふう♪ お兄ちゃ♪ 鈴のおまんこはどうかにゃ♪ 甘いかにゃ♪ それとも臭いかにゃ♪」

鈴

「にゃ♪ そんなにゃ♪ 甘くて臭くて美味しいだにゃ♪ にゃ♪ お兄ちゃんったら褒め上手だにゃ♪」

鈴

「そんなに喜んでくれるにゃ♪ もっと味わつてもりやえるように♪ にゃ♪ おまんこから愛液のお替りいっぱい出してあげるにゃ♪ にゃ♪」

鈴

「んふう♪ お兄ちゃ♪ 行きますにゃ♪？ おまんこに力を入れて……♪ マン汁ぷしゅぷしゅ♪ マン汁ぷしゅぷしゅ♪」

鈴

「にゃ〜ん♪ にゃふふ♪ お兄ちゃんのお顔に  
鈴の愛液がかかって〜♪ にゃ〜♪ 鈴はイケ  
ナイオナホールにゃ〜♪ んふう♪ オナホー  
ルう♪ 鈴はイケナイオナホールう〜♪ んふ  
ふ〜♪ にゃにゃにゃ〜ん♪」

鈴

「はあ、はあ♪ ん、にゃにゃ！ やっ！ お、  
お兄ちゃん！ ん、にゃふう〜♪ にゃ〜♪  
そこは鈴のクリちゃんにゃ〜♪ にゃ〜ん♪  
ダメにゃ〜ん♪ そんな所舐められたらあ♪  
おまんこお♪ おかしくなっちゃうにゃ〜  
♪」

鈴

「んふう〜♪ にゃ〜♪ ん、にゃうう♪ お  
兄ちゃ〜ん♪ おまんこお♪ ん、にゃふう♪  
おまんこお♪ もっとお〜♪ おまんこ気持  
ちよくなりたいにゃ〜♪ おまんこお♪ エッ  
チなお漏らしおまんこもつと舐めてにゃ〜♪」

鈴

「にゃ〜ん♪ らって〜♪ 鈴は〜♪ お兄ちゃ  
ん専用のドスケベオナホだから〜♪ にゃ〜ん  
♪ おまんこもドスケベで愛液止まらないんだ  
にゃ〜♪ にゃにゃ〜♪」

鈴

「ピッタリしたおまんこもず〜っと開きっぱなし  
で〜♪ おちんぽ欲しいってオネダリ止まらな  
いにゃ〜♪ おちんぽ欲しいにゃ〜♪ おちん  
ぽお♪ おちんぽおまんこに入れて欲しいにゃ  
〜ん♪」

---

鈴

「にゃふゝ♪ にゃゝ？ はにゃゝ？ そうにゃゝ……そういえばゝ、早くお兄ちゃんのおちんぽ入れて欲しくてオネダリしてたのにゝ……にゃんで鈴はお兄ちゃんにおまんこ舐めさせてるんだにゃゝ？」

鈴

「ふにゃゝ？ にゃううゝ……マタタビ嗅いでからにゃんらかよく分かんになくなつて……はにゃゝ？ にゃにゃゝ？」

鈴

「んゝ……にゃゝ……でもゝ、お兄ちゃんにおまんこ舐められるの気持ちいいかりやどうでもいいにゃゝ♪ にゃゝん♪ お兄ちゃゝん♪ おまんこもつと舐めてにゃゝん♪」

鈴

「鈴のオナホおまんこお♪ お兄ちゃんのおつきなおちんぽ受け入れられるようにい♪ 沢山舐めて解してにゃん♪ にゃんにゃん♪」

鈴

「ん、にゃゝん♪ はあ、はあ♪ にゃふうゝ♪ ん、にゃゝ♪ にゃゝ、にゃゝゝん♪ にゃゝん♪ にゃ♪ にゃ♪ にゃ♪ にゃゝ♪」

鈴

「んふう♪ にゃゝん♪ にゃふふ♪ またプシユつておまんこから愛液漏れたにゃゝ♪ ん、にゃふう♪ 全然止まんにゃくてゝ♪ このままじゃ際限なくマン汁零れちゃうにゃゝ」

---



---

鈴

「ん、にやふう♪ お兄ちゃ〜ん♪ やっぱいい  
このまま舐めるんじやなくって〜♪ お兄ちゃ  
んの〜♪ お〜ち〜ん〜ぽ〜で〜♪ 鈴のおま  
んこに栓をして欲しいにや〜♪」

鈴

「にや〜ん♪ そうにや〜♪ 今度こそおちんぽ  
で鈴のおまんこ犯して欲しいにや〜♪ 鈴の処  
女をお兄ちゃんで貫いて〜♪ 正式にお兄  
ちゃんだけのオナホールにして欲しいにや〜  
♪」

鈴

「にや〜ん♪ お兄ちゃ〜ん♪ 鈴の〜♪ キツ  
キツでにゆるにゆるな口りおまんこお♪ お兄  
ちゃんのデカチンで孕ませてにや〜ん♪ にや  
〜ん〜にやん♪」

トラック5

鈴

「んふう♪ ふうう♪ ふうう♪ にやあう♪  
お兄ちゃん♪ んふう♪ お兄ちゃんのおち  
んぽお♪ にやうん♪ 鈴のおまんこにい♪  
トロットロのロリおまんこに当たってるにやう  
ん♪ にやにやうん♪」

鈴

「はにやうん♪ 熱くてう♪ ぷっくり膨らんだ  
う♪ お兄ちゃんのおちんぽおう♪ にやうん  
♪ おちんぽお♪ おちんぽおう♪ 入れて  
にやう♪ おちんぽ入れてにやううん♪」

鈴

「にや、でもう♪ 鈴のおまんこは処女にやか  
らう♪ にやうん♪ できればお兄ちゃんの顔  
を見ながらエッチしたいにやう♪」

鈴

「お兄ちゃんのお♪ 鈴の大切なお兄ちゃんの大  
好きな顔を見ながらう♪ おちんぽをぬぶぶ  
うって入れてう♪ にやうん♪ いっぱい鈴の  
事使って欲しいにやう♪ 愛して欲しいにやう  
♪ にやうん♪」

鈴

「んふう♪ にやにやうん♪ おちんぽお♪  
入ってくるにやう♪ 鈴のお♪ 処女おまん  
こお♪ パイパンロリおまんこにい♪ にやう  
ん♪ お兄ちゃんのデカちんぽお♪ 来るにや  
う♪ 来ちやうにやう♪ にやにやうん♪」

鈴

「ん、んふう♪ んみゆ♪ にや、にや、にや、  
ん！ はにやあああああ~~~~ん♪♪」

鈴

「にや、にやぷう♪ にやにや~~~~ん♪ はあ、  
はあ♪ お兄ちゃんのおちんぽお♪ んふう♪  
にや~~~~ん♪ 全部う♪ 鈴のおまんこに入っ  
たにや~~~~♪」

鈴

「にや~~~~♪ 鈴の子宮まで一突きで~~~~♪ んふう  
♪ にや~~~~ん♪ お兄ちゃんのおちんぽがお腹  
に浮き出てえ♪ にや~~~~♪ 鈴、お兄ちゃんと  
せつくしゅしてるにや~~~~♪」

鈴

「はにや~~~~♪ お兄ちゃんとせつくしゅう♪  
にや~~~~♪ 鈴の初めて捧げられたにや~~~~♪  
にや~~~~ん♪ 嬉しいにや~~~~♪ 幸せにや~~~~♪  
んにや~~~~♪ にやにやにやにや~~~~ん♪」

鈴

「はあ、はあ♪ にやぷう♪ お兄ちゃ~~~~ん♪  
どうにや？ 鈴のちっちゃなプ二穴おまんこ気  
持ちいいにや？ にやにや~~~~♪」

鈴

「にや~~~~ん♪ にやふ~~~~♪ 嬉しいにや嬉しい  
にや~~~~♪ にや~~~~ん♪ お兄ちゃんのオナホー  
ルとして最高の誉め言葉にや~~~~♪ にやんにや  
~~~~ん♪」

---

鈴

「鈴のおまんこもお♪ お兄ちゃんのおちんぽにご奉仕したくてちっちゃなヒダヒダがおちんぽちゅっちゅしてるの分かるにゃ〜♪ にゃ〜ん♪」

鈴

「こうやってえ……おまんこを〜、きゅっきゅ〜♪ きゅっきゅ〜♪ にゃあん♪ にゃ♪ にゃん♪ にゃ〜♪ 凄いにゃ〜♪ お腹がおちんぽでいっぱいにな〜♪」

鈴

「にゃふふ〜♪ お兄ちゃんったら切なそうな顔してるにゃ〜♪ もしかして〜♪ おちんぽ動かしたくて我慢できないにゃ〜？」

鈴

「にゃふふ〜♪ そ〜れ〜にな〜ら〜♪ にゃ〜ん♪ いいにゃん♪ 鈴はお兄ちゃんのオナホだから〜♪ お兄ちゃんの好きな様におまんこズポズポ犯してにゃん♪」

鈴

「子宮の奥、ロリまんこの赤ちゃんのお部屋にい〜♪ い〜っぱいお兄ちゃんのチンカスと出したてザーメン♪ ぴゅっぴゅして可愛い赤ちゃんを孕ませて欲しいにゃん♪ お兄ちゃんの赤ちゃん産ませて欲しいにゃ〜♪」

鈴

「にゃから〜♪ にゃ〜ん♪ 鈴の事は気にしないで、お兄ちゃんの欲望のまま……鈴のオナホまんこ♪ 使いたいように使ってにゃん♪ にゃにゃ〜ん♪」

---

鈴

「て、にや、にやにや！ にやふ！？ はにや  
にやつ！ にや、にやゝん♪ にや♪ にや♪  
にや♪ にや♪ にや♪ にや♪ にや♪ にや♪  
にやゝん♪」

鈴

「にやん♪ にやふふ♪ にや♪ にやん♪ お  
兄ちゃんってば、ん、にやん♪ いきなり、  
ん、んふう♪ にや♪ にやゝん♪ おちんぽ  
奥までパンパンってえ♪ にやゝん♪ 激しい  
にやゝん♪ にやゝん♪ 気持ちいいにやゝん♪  
にやにやゝん♪」

鈴

「にや♪ ん、にやうう♪ にやにやあ♪ 一回  
一回突かれる度にい♪ にやにやゝん♪ お兄  
ちゃんの大好きが子宮に伝わってえ♪ は  
にやあ♪ 嬉しいにや嬉しいにやあ♪ ん、  
にやにやゝん♪ にやお♪ にや♪ にや♪  
にや♪ にやあ♪」

鈴

「ふにや♪ にや♪ にや♪ にや♪ にや♪  
にや♪ にや♪ にや♪ にやゝん♪ にや  
にやゝん♪ んふう♪ お兄ちゃんのおちんぽ激  
しくってえ♪ ふにや♪ にや、にやあ♪ 鈴  
のおまんこお♪ まだ新品にやのにい♪  
にやあん♪ 捲れりゆう♪ にやにやあ♪ お  
まんこのヒダヒダ捲れちゃうにやゝん♪」

鈴

「ふにやああ♪ んにや♪ にや♪ にや♪  
にや♪ にや♪ ん、にやうう♪ にやゝ♪  
にやにやゝ♪」

鈴

「にやん♪ にや、にや、にやあ♪ ん、んふう  
♪ にやおお♪ にやゝん♪ お兄ちゃん、ん  
みゆう♪ お、おおお♪ おまんこお♪ ん  
ふう♪ にやゝん♪ お兄ちゃん、お兄ちゃゝ  
ん♪」

鈴

「んふう♪ エッチしにやがらでいいかりやゝ♪  
きしゆうゝ♪ ん、んふう♪ おおお♪  
にやううう♪ お兄ちゃんときしゆうう♪  
ん、にやうう♪ きしゆしにやがらエッチした  
いい♪ したいにやゝん♪ にやにやゝん♪」

鈴

「にやうう♪ にや♪ にや♪ にや♪ にや♪  
にや♪ にや♪ にや♪ にやあ♪ ん、  
にやあ♪ お、お兄ちゃ……はぶっ♪ ん、ん  
むう♪ ちゆ♪ はぶっ♪ じゅぶぶっ♪  
じゆる♪ れろ♪ れろれろ……んちゆ♪  
じゆるじゆるじゆるじゆる♪」

鈴

「んぶう♪ お兄ひゃん♪ やっ♪ もつろ♪  
じゆる♪ じゆるるるうう♪ んふう♪ は  
ぶっ♪ れろれろ♪ れろれろれろれろ♪  
じゆるる♪ じゆる♪ ん、ちゆ♪ れりゆれ  
りゆ♪ じゆるるるるう♪」

鈴

「ん、ぷはあ♪ はあ、はあ♪ にゃ〜ん♪  
にゃふう♪ ん、にゃ♪ にゃ♪ にゃにゃ〜  
ん♪ お兄ちゃんとせつくしゅしにやがらのき  
しゅう♪ にゃ〜ん♪ 気持ちよしゆぎてえ♪  
にゃ〜ん♪ おまんこきゅんきゅん止まん  
にゃいにゃ〜♪ にゃにゃ〜ん♪」

鈴

「ん、にゃ♪ にゃ♪ にゃ♪ にゃ〜♪ にゃ  
にゃ〜ん♪ おまんこお♪ ドンドンおちんぽ  
の形に変わってくにゃあ♪ ミチミチおまんこ  
広がるにゃ〜♪ おまんこ汁止まんにゃいにゃ  
〜♪ んふう♪ にゃ♪ にゃ〜ん♪」

鈴

「にゃあ、にゃあ♪ にゃううう♪ にゃ〜ん♪  
お兄ちゃんってばあ♪ 涎垂らしてだらしな  
いお顔してますにゃ〜♪」

鈴

「にゃ〜ん♪ 鈴があ♪ ん、んほおお♪ お、  
おお♪ にゃあ♪ 鈴のおまんこでえ♪ お兄  
ちゃんをこんなに喜ばせられてるにゃんてえ〜  
♪ ん、んほおお♪ お、おお♪ にゃ〜ん♪  
嬉しいにゃ〜♪ 嬉しいにゃ〜ん♪」

鈴

「んほおお♪ お、お、お、おお♪ にゃにゃ〜  
ん♪ おまんこもお♪ もっと強く締めてえ〜  
♪ にゃん♪ おまんこきゅつきゅ♪ おまん  
こきゅつきゅうう〜♪」

---

鈴

「にやにや♪ おまんこの奥う♪ 鈴のお♪  
お兄ちゃん専用の子宮で♪ 大好きなおちん  
ぽにキスしちゃうにや♪ にやにや♪」

鈴

「にや♪ おちんぽちゅっちゅう♪ おちんぽ  
ちゅっちゅう♪ にやふ♪ おちんぽもっ  
とお♪ ちゅっちゅ♪ ちゅっちゅう♪」

鈴

「にや♪ お兄ちゃん♪ 唇もお♪ おまん  
こと一緒にきしゅう♪ 上も下もお♪ いっぱ  
いきしゅしゅるにや♪ にや♪」

鈴

「ん、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ はぶっ♪ ん、  
んふう♪ ちゅ♪ はぶっ♪ れろ♪ れろれ  
ろれろろろ♪ んちゅうう♪ じゅるる♪  
じゅうぶっ♪ じゅるるるうう♪」

鈴

「んふう♪ にや、にやにやっ！ お、お兄ちゃ  
ん……！？ にやんだか段々ペース速くなって  
……はにや！？ にやにや！？ にやっ！  
やっ！ お、おちんぽやっ！ だ、ダメにや！  
んお♪ やっ♪ おちんぽ子宮入って……  
ん、んぶうっ！？」

---



鈴

「んお♪ にゃ♪ お、おおお♪ ん、にゃおお  
♪ んふう♪ にゃ♪ にゃあ♪ んおおお♪  
お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪  
おおお♪ んふう♪ にゃあ♪ お、おちん  
ぽお♪ んみゆう♪ やっ♪ ら、らめにゃ  
♪ んおおお♪」

鈴

「んお♪ お♪ お♪ お♪ おおお♪ にゃ  
ふう♪ んおおお♪ にゃにゃあ♪ にゃあ♪  
お、お兄ちゃ〜ん♪ んふう♪ おおお♪  
ん、お♪ にゃおお♪」

鈴

「にゃ♪ にゃ♪ にゃあ♪ しゆきにゃあ♪  
お兄ちゃんだいしゆきい♪ ん、んふう♪ お  
兄ちゃんもお♪ おちんぽもお♪ んにゃ♪  
にゃ、にゃにゃ〜♪ 全部う♪ んふう♪  
お、お、お、おおお♪ にゃあん♪ 全部らい  
しゆきにゃあ♪ にゃにゃ〜♪」

鈴

「んお♪ お、お、お、おおお♪ にゃにゃあ♪  
やっ♪ にゃ、にゃあ♪ にゃうう♪ やあ  
にゃあ♪ 鈴ももう何がにゃんらか分かんにゃ  
くって〜♪ んほおおお♪ んお♪ お♪ お  
♪ にゃおお〜♪」

鈴

「にやあああ♪ 気持ちよしゆぎてえ♪ にやゝ  
ゝん♪ にやにやゝ♪ れもお♪ お兄ちゃん  
がらいしゆきなのお♪ んおお♪ お兄ちゃ  
ゝん♪ お兄ちゃんお兄ちゃんお兄ちゃんお兄  
ちゃゝん♪ んおお♪ にや♪ にや♪  
にや♪ にやああゝゝ♪」

鈴

「んお♪ お、お、お、おお♪ にやにやゝ♪  
う♪ にやにやゝ♪ んふっ♪ お♪ お♪  
お♪ おお♪ おちんぽのカリい♪ ん  
ぷう♪ おお♪ にやああ♪ んふう♪ カ  
リがおまんこ削ってくりゆう♪ んお♪ お、  
おお♪ おまんこホジホジほじられりゆ  
にやああ♪ にやにやゝ♪」

鈴

「にや♪ にや♪ にや♪ にや♪ にや♪  
にや♪ にや♪ にやあああ♪ あぶっ♪  
ん、んん♪ にやあああ♪ しよんにや、  
やつ♪ らめ！ おまんこ裏返りゆ♪ やっ♪  
おっほおお♪ にやにやゝゝ♪ ん  
おお♪ おお……♪」

鈴

「鈴によおまんこお♪ にやああ♪ お兄ちゃん  
の為のオナホまんこお♪ んほお♪ お、お、  
お、おお♪ プリって裏返るにやあ♪ おまん  
こ外に出ちゃうにやああ！ 子宮飛び出しちゃ  
うにやあ！ にやにやゝゝ……！」

鈴

「にやにやあ♪ んにやあ♪ はう♪ にや♪  
んお♪ お、おお♪ にやあ♪ しゅきい♪  
んにやあ♪ お兄ちゃ♪ん♪ はぷっ♪ あ  
ぷっ♪ じゅる♪ じゅるるる♪ んちゅ♪  
ぷはあ♪ しゅきい♪ しゅきにやしゅきにや  
あ♪ んちゅ♪」

鈴

「ぷはあ♪ んお♪ お、おお♪ も、もう♪  
んひい♪ にやにやあ♪ こんにやに気持ち  
いいの知ったら♪ にやにや♪ 戻れにや  
いにや♪ もうセックス無しじゃ生きれにや  
いにやあ♪ オナホとしてしか生きれにや  
にやあ♪」

鈴

「んふう♪ んお♪ お、お、おお♪ ん  
ほおお♪ おまんこもお♪ おちんぽの味知っ  
ちゃってえ♪ にやにや♪ おちんぽお♪  
ちんぽの味い♪ チンカスの味覚えちゃってえ  
♪ にやあ♪ にや♪ にや♪ にやにや♪  
♪」

鈴

「こんな贅沢教え込まされてえ♪ んふう♪  
にや♪ん♪ 鈴のおまんこお♪ 本当にお兄  
ちゃん専用になったにやあ♪ お兄ちゃんだけ  
のお♪ お兄ちゃんのおちんぽ専用のお♪ お  
ちんぽケースう♪ おちんぽケースになっ  
ちやったにやあ♪」

鈴

「れもゝ♪ んふう♪ それでいいにやあ♪ それがいいんだにやゝ♪ 鈴はあ♪ お兄ちゃんのお♪ お兄ちゃんだけのおまんこお♪ おちんぽケースう♪ んおお♪ にやゝ♪ んお♪ お♪ おお♪ おおお♪ んほおお♪」

鈴

「にやあん♪ らかりやあ♪ お兄ちゃんにならあ♪ んふう♪ お、おおお♪ おまんこ壊されてもいいにやあ♪ お兄ちゃんが気持ちよくなってくれりゆなりやあ♪ んにやゝ♪ んほおゝ♪ んお♪ おお♪ おおお♪ それでいいにやゝゝ♪」

鈴

「それが鈴のお♪ 孕巫女のお♪ 性処理おちんぽケースの役目にやからあ♪ んにや♪ おお♪ おお♪ おおお♪ んほおお♪」

鈴

「んおおお!? お、お!? にや! にやにやにやゝゝ!? んおお♪ にやにやあ!! お兄ちゃん! やっ! にや! にやあ! そんなにやおちんぽ速くして、はにやああ!？」

鈴

「んお♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ おおお♪ にやおおお♪ やっ♪ にやにや! そんなにやの無理にやっ! やっ! ダメ! ダメにや! やっ! こ、壊れりゆ! 本当におまんこ壊れっ! んぶううっ! おごっ! んお! お! お! お! おお!」

鈴

「ぶふっ！ やっ！ んお♪ お、お、お、お、お、お、お、おお！！ やっ！ 鈴もうらめっ！ おまんこらめ！ 頭飛ぶにや！ どこか伊っちゃうっ！ 全部どっか伊っちゃうにや！ にやっ！ やっ！ にや！ にやにやにやにや！？」

鈴

「はっ！ んぶっ！ んお♪ お、お、お、お、お、お♪ にやにやあ！ お兄ちゃん！ お願いにや！ 鈴の事抱きしめてにや！ はあ、はあ、んお！ お、んほおお♪ お、おおお♪ 鈴がどこにもイかないように！ にやふう！ 壊れちゃわない様にい！ ん、んふう♪ んお！ お！ おお！！」

鈴

「にやふっ！ んお♪ お♪ お♪ お♪ おおお♪ にやにやあ♪ んおお♪ お、お兄ちゃん！ んふう♪ お、おおお♪ にや、にや、にや、にやああ！！ にやにやあ！ んおお♪ イ、イグう♪ んふう♪ にやあ♪ おまんこお♪ お兄ちゃんに抱かれながらイグう♪ イグにやあ！！ おまんこイグにやあ！！」

鈴

「にやにやあ！！ お、お兄ちゃんもお♪ お兄ちゃんも一緒にイグにやあ！ 一緒がいいにやあ！ 一緒にお漏らししゆりゆにやあ！ 一緒が良いにやあ♪」

鈴

「んおおお♪ ふにゃ！ にゃ！ にゃ！  
にゃ！ にゃ！ にゃ！ にゃ！ にゃああ！  
にゃにゃああ！！ やあっ！ イ、イぎゅう  
うう！！ んおお！ イグう！ イグイグイ  
グイグイグイグイグう！！ んほおお  
お♪ イっぎゅうううううううう  
〜！！」

鈴

「んにゃあああああ……♪ んっほおお  
おお♪ んおお♪ にゃああ〜♪ は  
にゃああ〜♪ にゃ♪ やっ♪  
にゃああ♪ にゃにゃ〜♪」

鈴

「んふう♪ にゃにゃああ♪ にゃあ〜♪ おま  
んこからあ♪ お漏らしい♪ んふう♪  
んおお♪ お、おお♪ お漏らしい♪ 止ま  
んにゃいにゃあ〜♪ んふう♪ にゃあ♪  
にゃにゃ〜ん♪」

鈴

「はあ、はあ♪ にゃ〜♪ それにい♪ ん、  
にゃあ〜♪ お兄ちゃんの精液い♪ お子種え  
♪ にゃあ♪ 鈴のお腹あ♪ 子宮にトプトプ  
注がれてえ♪ んふう♪ はあ、はあ、はあ、  
にゃあ〜♪」

鈴

「ん、にゃふふ♪ いいでしゅにゃ〜♪ お兄  
ちゃ〜ん♪ ゆっくりい♪ にゃ〜ん♪ ゆっ  
くり精液注いで欲しいにゃあ♪」

鈴

「鈴もお♪ んにや♪ お兄ちゃんの大切な精  
液い♪ ん、にやふ♪ 零さない様い♪ ん、  
にやん♪ 頑張っておまんこ締めてえ……」

鈴

「ん、にや♪ ん……にや♪ にやふ♪  
にやんにやん♪ おまんこきゅつきゅ♪ おま  
んこきゅつきゅうう♪ 一滴も零さないよう  
に大切に、大切にい……おまんこきゅつきゅ♪  
おまんこきゅつきゅうう♪」

鈴

「にやにやん♪ お兄ちゃん♪ んちゅ  
♪ はぷっ♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪  
にやふふ♪ にやんらか♪ 子宮にいつぱい  
赤ちゃんみりゆく注がれてえ♪ にやん♪  
大好きが溢れて止まんにやいにやあ♪」

鈴

「んちゅ♪ にやふう♪ お兄ちゃんしゅき  
にやあ♪ にやちゅ♪ あむ♪ んちゅ♪  
ちゅ、ちゅ♪ にやぷっ♪ れろ♪ れろれ  
ろ♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅう……ちゅ  
♪」

鈴

「にやあ♪ お兄ちゃん♪ しゅきにやあ♪  
大しゅきにや♪ にやんにやん♪ にや  
♪ ちゅ♪ ちゅう、ちゅ♪ しゅきい♪ ん  
ちゅ♪ しゅきにやあ♪ にやにや♪」

---

鈴

「にゅふふ♪ にゃん♪ お兄ちゃん♪  
いっぱい鈴のロリまんこでぴゅっぴゅしてくれ  
てありがとにゃん♪」

鈴

「にゃん♪ いつまでも♪ いっぱい！ い  
っぱい鈴のおまんこ使って性欲発散して欲し  
いにゃん♪ お兄ちゃんのオナホールとしてえ  
♪ いっぱいいっぱい使われないにゃん♪」

鈴

「だからにゃ？ お兄ちゃん♪ どうかこれか  
りやも鈴の事、お兄ちゃんのオナホールとし  
て、お兄ちゃんの孕巫女として、よろしくお願  
いしますだにゃん♪ にゃにゃん♪」

---



## トラック6

鈴

「ん、にやむ……んにや？ ん……んむう……  
にや、ふにや……にや……お……にやむ  
……ん、にや……にやあ？ んむう……朝  
にや……？ ん、にや……むう……にや  
むにやむう……」

鈴

「ん、ん……にやあ？ 確かあ……はにや？  
昨日お兄ちゃんとせつくしゅしてえ……ん  
にやあ？ そうにやあ……お兄ちゃんにマタタ  
ビ嗅がされてえ……にやうう……すつごく恥ず  
かしい姿見せちゃったにやあ……」

鈴

「んむう……！ 全くう……にや……お兄  
ちゃんったら嫌がる鈴を無理矢理マタタビで発  
情させるにやんてえ……本当に酷いお人です  
にや」

鈴

「にやふう……お兄ちゃん。お兄ちゃんお兄  
ちゃん。朝になったにや。起きる時間にや  
」

鈴

「はにや。全然起きる気配がないにや。にや  
にや」

鈴

「んゝ……にやゝん♪ 良いこと考えたにや♪  
寝坊助なお兄ちゃんを起こしてあげるのも鈴  
の、お兄ちゃん専用オナホルの役目にや♪  
鈴がお兄ちゃんを優しく起こしてあげるにや♪  
にやにやゝん♪」

鈴

「にやら早速う♪ にやふふ♪ お兄ちゃゝん♪  
んゝちゆ♪ はぶ♪ ん、ちゆ♪ ちゆ、  
ちゆ♪ にやふふ♪ お兄ちゃんのお耳にキ  
スしちゃったにやゝ♪ にやゝん♪」

鈴

「昨日はゝ、んゝちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪ おちん  
ぽにもお♪ はぶ♪ んゝちゆ♪ 唇にもお♪  
いっぱいキスしたけどゝ……ちゆ、ちゆ♪  
お耳にはキスしてなかったからあ……あむ♪  
んゝちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪ にやふふ♪ 今日  
はお耳をいっぱい気持ちよくしてあげるにやゝ  
♪」

鈴

「んゝちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪ はぶっ♪ んちゆ  
♪ ちゆ、ちゆ、ちゆ、ちゆ♪ にやふふ♪  
んゝ、ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪ んちゆ♪ ちゆ  
ぷぷ……ちゆ♪ んゝちゆ♪ ちゆう……ちゆ  
♪」

鈴

「にやゝん♪ お兄ちゃんのお耳い♪ 唇と同じ  
くらい柔らかくて……んちゆ♪ はぶっ♪  
ちゆ、ちゆ♪ にやゝ♪ プニプニで面白い  
にやゝ♪ にやにやゝ♪」

鈴

「んゝちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ちゅぷっ♪ ちゅ……ちゅ♪ って、はにや？ ん、何かちよつと苦い味がしたにや……にやにや？ この黄色い塊……んにや？ これ何かにや？」

鈴

「もう一度お……はむ♪ んゝ、ちゅ♪ れろ……ちゅぷ♪ ちゅ、んゝ……ちゅ♪ れろれろ……ちゅ、ちゅ♪ んゝちゅ♪ んゝ……ちゅ♪」

鈴

「にやゝ♪ また黄色い塊とれましたにやゝ♪ これを……鈴のお口の中で転がして……」

鈴

「んむう……ん、くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ、はむ……ん、ごく、ごく、ごく……ん、ん……ぷはあ♪ はあ、はあ……にやあゝん♪」

鈴

「これ、すっごく臭くて酸っぱくて……にやうう……全然美味しくないはずにやのに、お兄ちゃんのお耳から舐めとった物だと思うと……にやゝん♪ にやんだか不思議と美味しく感じるにやゝ♪」

鈴

「もっとお♪ もっともゝっとお兄ちゃんのお耳の奥まで舐めて耳カスのお替りいただくにや♪」

鈴

「にやふふ♪ お兄ちゃん♪ いただきますにやゝ♪ あゝ……んむう♪」

---

鈴

「んちゅ♪ じゅるる♪ ん、れろ♪ れろれろ  
れろれろ♪ んゝちゅ♪ はぶっ♪ んぶっ♪  
じゅるる♪ じゅるる♪ じゅるるるう♪ ん  
ちゅ♪」

---

鈴

「んちゅ♪ れろれろ♪ ん、にやあ♪ お兄  
ちゃんのお耳、とっても汚くて臭くって……ん  
ちゅ♪ れろれろ♪ ご奉仕のし甲斐がある  
にやゝ♪ はゝんむう♪ れゝろれろれろ♪  
んちゅ♪ じゅるるるる♪ んゝちゅ♪」

---

鈴

「もつろお♪ もつろ鈴にお兄ちゃんの臭い耳力  
ス食べさせてにやゝ♪ にやにやゝん♪ はゝ  
む♪ んむ♪ あむあむう♪ ちゅ♪ れゝろ  
れろれろゝ♪」

---

鈴

「んにや？ にやふ？ お兄ちゃん、少し体が動  
いたにや？ んゝ……お兄ちゃゝん？ にや  
ゝ？ もしかして鈴のお耳ぺロぺロで起きてく  
れたのかにやゝ？」

---

鈴

「はにやゝ……起きたわけではなさそうにや。ん  
ゝ……にやゝらゝ……お兄ちゃんに起きてもら  
えるようもつと頑張るにや♪ にやゝ……ん  
むう♪ じゅるる♪ んちゅ♪ はぶ♪ れろ♪  
れろれろれろれろゝ♪ んちゅ♪ じゅるる♪  
じゅるるるう♪」

---

鈴

「ちゅぷ♪ ちゅ、んちゅ♪ れろれろ……  
ん、ちゅ♪ じゆるる♪ じゆるる♪ ん、最後  
に……ん……じゆるる♪ じゆるるるる♪  
ん！ じゅりゅりゅりゅりゅりゅうううう  
……んぷっ……ぷはあ！ はあ、はあ、  
はあ、はあ……♪」

鈴

「ん、えぷっ、にやう……口の中に耳カスがいっ  
ぱい……えう、ん、喋りにくいにや」

鈴

「んむう……お兄ひゃん。鈴がお兄ひゃんの耳か  
しゅ……ごっくんしてあげりゆかりや……よく  
聞いててにや？ ん、にや」

鈴

「えう……あむ♪ ん……くちゅ、くちゅくちゅ  
くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ……  
……う、ごく、ごく、ごく……ん、んむう  
……ぷはあ！ はあ、はあ、にやふううう♪」

鈴

「はにやう♪ お兄ちゃんの耳カスう♪ 鈴の喉  
を通って胃に流れ込んで……にやうん♪ お兄  
ちゃんと一つになっちゃったにやう♪」

鈴

「ににやう♪ 耳舐めって素敵にやう♪ 最高  
のご奉仕にやう♪ にやふう♪ お兄ちゃん♪  
好きにやう♪ 大好きにやう♪ んちゅ♪  
ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ んちゅ♪ ちゅ、  
ちゅ♪」

鈴

「はふう♪ 鈴、もっとお兄ちゃんの耳カス食べたいにや♪」

鈴

「だ〜から〜♪ にやにや〜♪ にやんにやん♪ にやにやにやにや〜♪」

鈴

「にやふふ〜♪ 今度はこっちのお耳をペロペロして、お兄ちゃんの臭くて汚いお耳をお掃除してあげるにや♪ にやにや〜ん♪」

鈴

「にや〜……む♪ ちゅぷ♪ じゅる♪ れろ、れろれろ♪ ん〜ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ れろれろれろ……じゅるる♪ ん〜ちゅ♪ ちゅぷぷっ♪ はぷっ♪ れろれろ♪」

鈴

「にや〜ん♪ こっちのお耳も耳カスいっぱいにや〜♪ んむ♪ とっても食べ応えがあつて〜♪ あむあむ♪ んにや〜♪ 臭くて美味しいにや〜♪ んふう♪ は〜……んむう♪」

鈴

「んぷ♪ じゅるる♪ んむ♪ ちゅ♪ れろ♪ れろれろれろれろ♪ んにや〜ん♪ お兄ちや〜ん♪ ん〜ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

鈴

「にやにや？ お兄ちゃんまた動いたにや？ んにや〜♪ 眠ってても体は敏感にや♪ お兄ちゃんは可愛いにや〜♪ んにやにや〜♪」

鈴

「にやぷっ♪ ちゅ、んちゅ♪ にゃん♪  
後は奥に転がってるおっきい耳力スだけにや。  
んにゃん♪ いっぱいペロペロするにゃん♪  
ん、にゃん……んむう♪」

鈴

「んちゅ♪ じゅるじゅる……ん……れろれ  
ろれろれろれろ……んちゅ♪ じゅるる♪  
じゅるるるう……ちゅぱあ♪ はあ、はあ、  
はあ、にゃん♪」

鈴

「んにゃ♪ やっとおっきな耳力ス取れたにゃ  
♪ ん、にやむ、にやむにやむ……これを、  
鈴の唾液と混ぜて……」

鈴

「くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ  
くちゅ♪ んちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ  
ぷはあ♪ はあ、はあ♪ にゃん♪ お兄  
ちやん♪ 耳力スご馳走様にゃん♪ にゃ  
んにゃん♪」

鈴

「って、にやにや？ お兄ちゃん？ にゃん♪  
やっときてくれたにゃ♪ にゃん♪ お兄  
ちゃん♪ おはようだにゃん♪」

鈴

「ん、にゃん♪ にゃ♪ にゃ♪ にゃ♪ にゃ  
ん♪」

鈴

「にやふふ♪ お兄ちゃん、気分はどうかにや？  
にやにや？ お耳が湿ってる……って、にゃ  
ん♪ それはそうにゃ♪」

---

鈴

鈴

鈴

鈴

---

「お兄ちゃんが寝てる間、鈴が一生懸命お耳をペロペロ綺麗にしてあげてたにや。大好きなお兄ちゃんにいっぱいご奉仕してあげてたにや♪」

「にゃんにゃん♪ にゃふう♪ 喜んでくれたみたいで嬉しいにゃん♪」

「もしよかったらこれからも毎日お耳ペロペロで起こしてあげるにや♪ オナホとしてお兄ちゃんが目覚ましになってあげるにや♪」

「にゃふう♪ 明日の朝も、その次の朝も♪ 鈴のお耳ペロペロ♪ 楽しみにしててにや♪ にゃにゃん♪」